



マナウス日本人学校 学校だより

マナウス

2019年(令和元年)12月13日 第9号

学校教育目標

- ・自ら進んで学びとる子ども (知)
- ・礼儀正しく思いやりのある子ども (徳)
- ・心と体を鍛える子ども (体)

文責: 校長 柏木 廣喜

無事、2学期を終了しました。ご支援に感謝いたします。

本日、無事2学期の終業式を迎えました。これもひとえに、保護者の皆様・地域の皆様の温かいご支援のおかげと、深く感謝しております。

83日間という、1年の中では最も長い学期でしたが、振り返ってみますと、たくさんの場面で児童生徒の成長を感じることができました。

今学期は、アマゾン体験学習、日本人アマゾン移住90周年式典、水泳記録会、ミニ弁論大会やお話大会、学習発表会、長距離走大会など、日常の授業の他にも多くの行事がありました。加えて水泳記録会後のPTAレクや文化講座、学校施設開放など、様々なところで保護者の皆さんからご支援を賜り、あらためて「学校・家庭の連携による学校運営(チームマナウス)」を実感しました。ありがとうございました。



学校教育目標の具現化

- 確かな学力
- 豊かな心
- 健やかな体

さて、今学期も「学校教育目標の具現化」に向けて、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成に取り組んできました。今後も、日常の授業のみならず、行事や集会活動を通して、子どもたち一人ひとりが全人的な成長・発達をとげることができるように、日々教育活動を見直していこうと考えて

ております。また今学期は、「学校評価」として保護者の皆さんからたくさんの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見を参考にしながら、学校全体ではどうだったのか、また学年や一人ひとりの児童生徒を見つめたときはどうだったのかなど、それぞれについて成果と課題を明らかにし、本年度の終了時には学校教育目標に更に近づくことができるように、改善を加えていきたいと考えています。

ジャン・ジャック・ルソーは、著書『エミール』の中で、「人間の成長・発達」と「教育という営み」の関係について、次のように述べています。

「私たちは弱いものとして生まれる。だから私たちには力が必要だ。私たちは何も持たずに生まれる。だから私たちには助けが必要だ。……生まれたときに私たちがもっていないもので、大人になって必要となるものは、全て教育によって与えられる」

未熟で無能な状態で誕生した人間、その人間を成長・発達させるさまざまな営みが「教育」ということになります。この「教育」には、もちろん学校教育のみならず、「家庭教育」や「社会教育」なども含まれます。こうして考えると、あらためて「学校・家庭・地域の連携」は子どもたちの全人的な成長には必要不可欠な要素です。これからも、「チームマナウス」、「ONE FOR ALL ALL FOR ONE」で取り組みたいと考えておりますので、令和2年もどうぞよろしく願いいたします。

【1月の予定】

- 7日(火)始業式、身体測定
CRT検査実施期間
- 9日(木)お別れ集会
- 11日(土)交流の日
- 13日(月)文化コース合同学習(16日まで)
- 18日(土)PTA役員会
- 20日(月)文化コース体験入学(24日まで)
- 25日(土)英検
- 26日(日)授業参観・PTA総会
- 30日(木)節分集会
- 31日(金)外国語発表会